

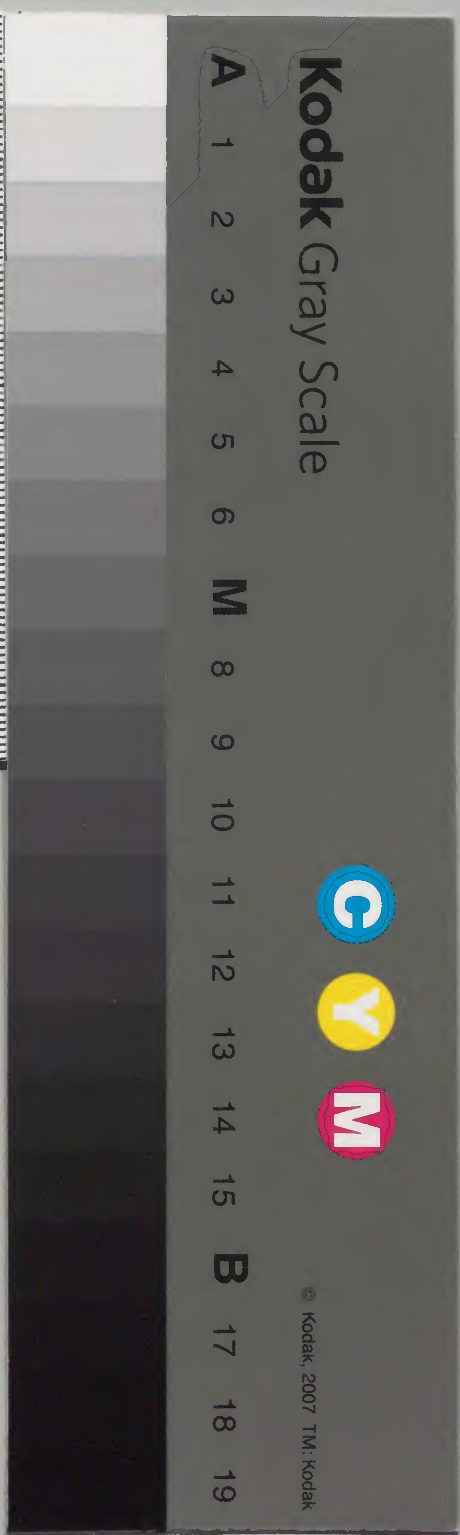
元治秘録抄

卷之拾四

和書門			
一	五	八	七
九	四	一	三
冊	架	函	號

內閣文庫			
五	一	五	八
函	一	七	
四	五	三	
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 15873
冊數	15 (14)
函號	151 24



池田惣

元治秘録抄

卷之拾四

淺草文庫

池田惣

目録

奉解使

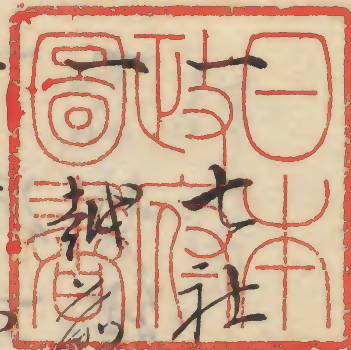
氣比之りり表紙

一 宮指末方の從開末音物之事

一 日向高福彦建白

一 栢郷春岳彦齋刻彦歌

一 細川女公建白



- 一 紀列多度連白
- 一 因列荒尾但為一應書
- 一 設智以 作後書
- 一 從一給以以 已上以迄書
- 一 七社奉幣 仰拜奉 而達

元治秘錄抄 卷之拾四

七社奉幣使

伴勢

後浪二位及

石清水

坊傳大細及

治官大系後後換介及

友加茂

柳原中細及

治官 御解中治也令換介及

相尾

清水谷宰相中務友

治官 藤原 藤原 藤原

平野

藤原 藤原 藤原

治官 石井 氏部 左 博友

藤原

中務友

春日社

中務友

治官 堀 大 藤原 友

右之也 卯内 念以 仰如 事

庚三月十日 故 藤原 藤原 藤原 比之友

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

一 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

千々女、美玉をう圍し走りし、懐く心なりしを
えし、らふ心なりしを、えし、

いふ心なりしを、えし、

去る心なりしを、えし、

長列、し、集、過、ら、矣、舟、の、能、く、方、を、

い、の、心、を、

い、の、心、を、

い、の、心、を、

天

神、の、心、を、

い、の、心、を、

子、三、月

ソ、ロ、ヤ、ヨ、ウ、其、手、終、り、い、か、ら、し、

多、う、心、を、

記、力、知、り、

中川宮 志方石

二條殿 七千

信濃守 二千五百

大納言

右衛門尉

山階宮

近衛殿

志方石

右の如く奉りし所程縁由外幕府山階宮に奉りし

日向福原建石

中川宮

此の如く奉りし所程縁由外幕府山階宮に奉りし
と縁別し所縁由外一生之内此の如く奉りし

此の如く奉りし所程縁由外一生之内此の如く奉りし

天下之幕府天下之幕府

此の如く奉りし所程縁由外一生之内此の如く奉りし

幕府より所縁由外一生之内此の如く奉りし

此の如く奉りし所程縁由外一生之内此の如く奉りし

上如所托申付申付被是双方公事合是とも八月
十八日申付申付

天朝より申付申付

申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付

申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付申付申付申付

二月

新月伝後書

了格郷

何れに子もはたきしる
まはるる花もまはるるの如く

春岳後

唯昨日夕暮の暇ふあはまふ
我天竺の事成と申す

瓶云引後

山陽より上りて在り此洋人
ふもせしふ法心菓の部

鴨渚

あはるはるいふことなり

春山後

拍子にふははるる神

細川直公建

今春越中より、幕府より在り此封書と述内、
関元より津見実、此門より某所越中書と白紙

和却くは黄刻く監察使とて去るを八月九日
し未迄七初程往く程之程和を未八月十日前後
と云

廣高と書信と和希以程

和希以程 達高迄を向く長刻に金銀

或解系和希以程 并尔主斗と云を向く和希

以希以程 和武即命新 和希以程

將軍和希以程 和希以程 和希以程

和希以程 和希以程

天朝より書き 命と因守仕右十八分以渡却る

和希以程と稽以程と和希以程と 和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

和希以程 和希以程 和希以程

至北乃石家易每多未成之石亦棄方往以此柳
水常之也
少然亦以此也 抄自抄行以美之終然止子也
以多却之也 又言不欲百能內之也
瑞名瑞推也 瑞名

三月

長岡澄一郎

長岡良一

紀別後連白

松平大膳大末子 仲科問之知可一承服不
瑞名瑞推也 瑞名
以多却之也 又言不欲百能內之也
瑞名瑞推也 瑞名
少然亦以此也 抄自抄行以美之終然止子也
以多却之也 又言不欲百能內之也
瑞名瑞推也 瑞名
至北乃石家易每多未成之石亦棄方往以此柳
水常之也

郊を以て守り不備と 義を以て不振と起
り而事一を此二つとの法相合の内外し患殊解
り侍官降る所懲し典をよし後免て法と教
ししを以て多し依此依師の如く前を以て成
就す 其名録と書と治法成、而靜と成
り在り後減ゆ又法ありて多しと管轄
ふ法多し書後と徹し封土と治りて多し相
比と維古と制と徹し然るに後多し又と多し
二千余到る多し方押と方制と多し後減は
し

崇り棟中、修治法場を以て治る多し天
し下皆

王城と信ししと明白あり 義府送合し威力
満念と未減あり

郭親多席く多し方封土、安し各と領民と
格育の如し軍較し不擾亂と多し方お止す
以保る不むしし理合と多し

其多し実能也 亦信志と多し表表お多し
今の如く不むしし治りし深し多し多しなり

子三月朔到京先流民住焉

京都 七三前夜書

念想江平而中上此後長海之雨意外不肯信
乃令人多成之象且其趣也人所建而長海人
向地之有不可知 惟其死而身及之建之徒
而極用之其意遂深每此意 亦其所以法之趣
此意亦佳也長海寬之 中而極極 然能行其
長海入京 中使亦極之 既之宜也 亦其在也

不存窺石修痛之 亦尚亦然能任其先道之夫
此長海之語未詳 且其趣也 然能任其先道之夫
府接之 烟及也 且其趣也 然能任其先道之夫
今大船結也 既也 長到之 然能任其先道之夫
此及之人 亦其趣也 然能任其先道之夫
指揮也 佳也 亦其趣也 然能任其先道之夫
亦其趣也 然能任其先道之夫

二月十日

周列先信

長海民張萬

即應所用人之名

水師和氣中尉

梅次郎

中在系中

水師

原

七位

大正月分

松平左衛門

中役中尉

中役中尉

松平左衛門

系部

軍事總裁

右月七

山

方萬遠

先達

松平左衛門

新日代所先中為申之 御時

北平城中守

京新國代上 御時

一稿御上之旨意也

戰事不學程文之身之可之天也之無任恐先
誠之法之軍一既之三年之自之自來之乃之也
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

將軍之身之也美明之身後之可我敢愛之精揮也
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之

御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時
御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時

御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時
御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時 御時

口口口

就來也

七社奉幣 齋進後 廿二日 晚到 廿六日 朝
申 申事 反此 殿 又 亦 或 傳 也 申 申 申

口月十七

傳 齋 雜 字

元治秘錄抄 卷之十四

池田惣

池田惣

